

## 萱野政徳会長からご寄稿頂きました

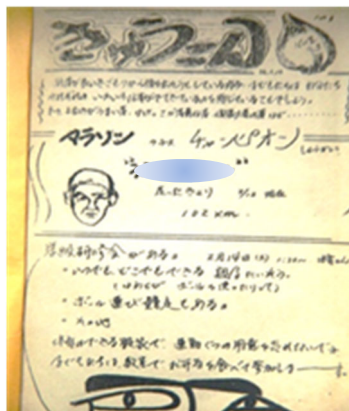
### 「一日一生」

この言葉を常に意識し教育に努めました。「故きを温ねて新しきを知る」ふと「きゅうこん」の編集編を発見しました。保護者が編集したものです。・アネモネ・ルピナス・サフランと学級名を作り学級経営に努めました。初めて一年生の担任になり「きゅうこん」にしたのです。昭和56年3月25日に編集された物でした。懐かしさと古き良き日のに留め置きました。正に感動感動でした。

【どんな花を咲かせるかな、きゅうこんのみんな三つの「学級目標」みんなしっかりできたかな。「〇きまり、やくそくをしまってまもること 〇がんばるきもちをもって、どんなこともいっしょうけんめいにやること 〇みんな、なかよく、たのしく、せいかつすること」この三つのこと、これからもわすれずにがんばってほしいな。きゅうこんとして、それぞれに、きぼうをもった、「め」がいくしゅもでましたね。その「め」がどのように大きくなり、どんなすばらしい花をさかせるのか、先生は楽しみです。生きていってこと、みんなかんじているね。そのかんじていることをいつももつて、なにをするにもかんがえて、かんがえて、そして、かんがえて生きることをしてほしいな】と締め言葉にしていました。

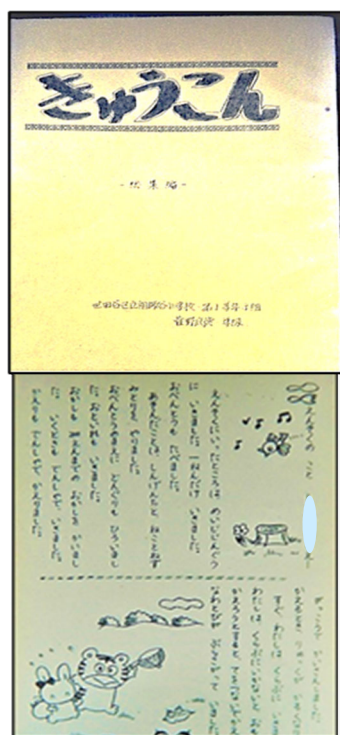
私自身「一日一生」を強く強く心に沁み込ませました。

老いてきた今ですが・・・  
(編集表紙→)



(学級通信↑)

(子どもの言葉→)



## 立花徳子副会長からご寄稿頂きました

B類美術卒業、ワンダーフォーゲル部に所属しました。彫刻の川口先生の授業を休んで新入生歓迎の登山、八ヶ岳の赤岳にのぼりました。1年生の1月、スキーに行ったあと退部。初任地は、大田区立田園調布小学校、3/31に決まりました。自宅から2駅、願ってもない幸運。初任者研修などない時代、9月に4教科の研究発表会が控えていたため、校内研修が頻繁に講師を招き行われていました。夜になっても協議が続く「行灯学校」研究校。研究発表会では、私は、社会科(以降、区や都での)の授業発表をしました。いまだに、ポイントになる発言をした児童も内容も覚えています。

失敗は、5月の家庭訪問が時間通りに行かなくて、夕方遅くまでずれこんだこと。2年後、新しいクラスを持ち、時間とおりに訪問する事がどんなに大切かわかりました。信頼されるのです。当時の保護者は、「新人を育てよう」というゆとりと見識がありましたから潰される事もなく同僚先輩に守られ今があります。

### 神奈川県支部に関わり始めたのは？

萱野先生とは、退職年が一緒で「港区教育センター」の向かい合いに座っていました。よくしてくださって、他の事務のかたが兄弟みたいだと、評していました。

萱野さんは、しゃれが好きで私は、受けてつっこむのが好き・・・笑

2011年に、萱野先生から手伝ってほしいと依頼され、当時、展示企画室でグループ展をしていましたので、神奈川県支部の総会会場として、川崎駅前の会場(ミュージア川崎)を利用することを思いついたのです。椅子を並べて、総会を隅でやりましょう。と、なりました。駅に近い、きれいが決めてでした。

朗読、演劇パワーは・・・美術科ですから・・・表現する事には興味あります。舞台は、総合芸術と言われていますよね。まあ何にでも興味持ち、やって見よう、やってみなくちゃ・・・まあ知りたがり屋の象さんみたいな・・・